

偽性血小板減少における専用採血管の IPF%値とスキャッタグラムへの影響と運用変更

◎小林 芽由¹⁾、金子 有希¹⁾、菊地 千絵¹⁾、近藤 真樹¹⁾、三浦 ひとみ¹⁾
東京女子医科大学病院 中央検査部¹⁾

目的:偽性血小板減少(以下 PTP)は血算容器に用いる抗凝固剤 EDTA の存在下で血小板凝集を生じ、見かけ上血小板数が減少する現象。当検査室では PTP に対して真の血小板数を報告する為に、EDTA 容器にカナマイシンを添加した容器又は血糖測定に使用する FC 管を用いる。しかし血小板数以外は EDTA 容器の数値を報告していた。一方、参考項目である血小板の造血能を反映する幼若血小板比率(以下 IPF%)は血小板減少性疾患の診断や治療に利用されるが、採血管種による影響を十分に把握できていなかった。今回我々は EDTA 容器とカナマイシン容器又は FC 管を使用した時の IPF%値とスキャッタグラムへの影響を検討したので報告する。対象:健常者 9 名と 2022 年 6 月 2 日~2023 年 6 月 28 日まで当検査室に提出された検体から PTP 患者 20 例を対象とした。方法:①健常者は EDTA 容器・カナマイシン容器・FC 管の 3 本。PTP に関しては EDTA 容器とカナマイシン容器又は FC 管に採血し、EDTA 容器のスライド鏡検で血小板凝集が②ある場合と③ない場合に分け血小板数と IPF%を比較した。結果と考察:①健常者では採血

管種による血小板数の差は認められなかった。IPF%は EDTA 容器とカナマイシン容器では差を認められなかったが、FC 管では 9 検体共に EDTA 容器より低値を示した。PTP ではスライド鏡検で②血小板凝集がある場合、IPF%は EDTA 容器と比べカナマイシン容器及び FC 管共に低値を示した。③血小板凝集がない場合、IPF%はカナマイシン容器では EDTA 容器と差はみられなかったが、FC 管では低値を示した。これは①の健常者での検討と同様の結果であった。FC 管で低値になる原因として PLT-F モードのスキャッタグラムの詳細を確認した所、EDTA 容器とカナマイシン容器では差がほぼ認められなかったが、FC 管では側方散乱光(SSC)が低値傾向を示した事により IPF%が低値になると思われる。その事から FC 管は IPF%の測定に適切ではないと考えられた。これらの結果より、PTP の IPF%の結果運用を改善する必要があった。まとめ:採血管種による IPF%への測定上の影響の違いを確認できた事により、臨床医の意見を踏まえ PTP の IPF%はカナマイシン容器の結果を報告し、FC 管は検査不能とする事に運用変更した。